

日 時：平成24年6月22日（金）18：30～20：30
場 所：八幡コミュニティセンター アリーナ
参加者：34名

【 当 日 の 内 容 】

18：30

- ◆ 開会

18：30～18：35

- ◆ 新任部長挨拶（石狩市 総務部／佐々木 隆哉 部長）

18：35～18：40

- ◆ 情報取得手段についての情報提供（事務局／石狩市 総務部）
 - ・石狩市メール配信サービス、緊急速報メール
 - ・石狩市の情報取得手段

18：40～18：50

- ◆ 本日の進め方の説明（事務局／株ドーコン）
 - ・グループ別意見交換の進め方

18：50～18：55

- ◆ 「防災に関するアンケート」の結果報告（事務局／株ドーコン）
 - ・地区別集計結果の概要報告

18：55～20：10

- ◆ グループ別意見交換
 - ・前回の意見交換結果の確認
 - ・いろいろな観点での「日頃の備え」を検討

20：10～20：30

- ◆ グループ別意見の発表
 - ・各グループ代表者から発表

20：30

- ◆ 閉会



◆グループ別意見の概要

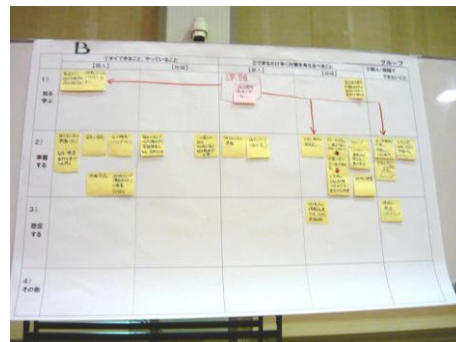
Aグループ：生振地区（4名）

- ・すべてのテーマが繋がっていると感じた。
- ・防災に関する情報を、家族で話し合うとして、何を話し合ったらよいかパンフレット等で情報提供して欲しい。また、個人の備蓄を考えるうえで、地域で何を備蓄しているか知らせて欲しい。
- ・専門家の災害想定を示してもらいながら、地域でできることを考えたい。
- ・メール等による情報提供手段は、使えない人への対応を考えることが必要。
- ・要援護者の情報を知るだけでなく、いざという時、誰が助けるのか考えておくことが必要。
- ・専門的知識をもとに、避難行動等について例示してもらいながら考えていくことが大切。
- ・冬の災害時の暖房確保も課題。



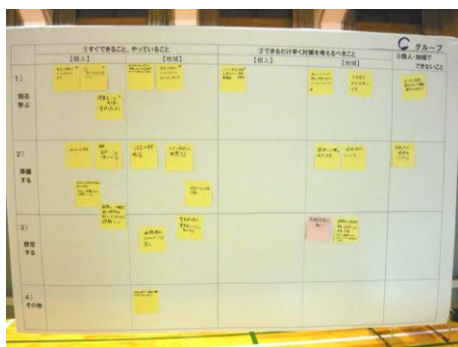
Bグループ：生振地区（5名）

- ・生振は高台がない。逃げる場所をどこにするか想定が必要。
- ・ワークショップの参加者はいろいろと意識できるが、地域に持ち帰って周知することが必要。
- ・東日本大震災での災害対応について勉強しておくことも重要。
- ・日常で危機意識を持つことや持ち出し品の準備は個人でもすぐできる。
- ・サイレン塔の整備や防災無線のデジタル化等も必要。
- ・防寒対策として、電気なしでも暖められるストーブの準備等が必要。



Cグループ：本町地区（6名）

- ・発災を早く知るための努力、早く知らせるための仕組みづくりが重要。
- ・持ち出し品の準備や備蓄も大切。
- ・本町地区では、確実な（津波等でも絶対大丈夫な）避難場所の確保が重要。
- ・緊急時の連絡としてヘリを飛ばす、花火を打ち上げるなどのアイデアも出された。



Dグループ：本町地区（6名）

- ・どこに逃げたらよいか考えることが重要。どんな災害が発生するか想定し、それぞれの逃げるパターンを想定する必要がある。避難訓練を実施することが重要。
- ・本町地区内に逃げる場所をつくる必要がある。高台の造成、消防署の整備にあわせた避難場所の確保など。
- ・移動困難者の名簿が町内会長限定で配られているようだが、個人情報を超えて、どのように助けたらよいか考えることが必要。一方で、町内会に入っていない人に対して、避難支援することについては感情的な軋轢があることも事実。



Eグループ：右岸地区（9名）

- ・議論の前提となる条件をイメージしづらい。当該地域でどのような災害が想定され、その際に地域・住民としてどのようにすべきか（して欲しいか）提示されると議論しやすい。
- ・専門家からの情報提供があれば、学校での教育や地域での訓練につなげていける。
- ・備蓄の重要性についても指摘された。
- ・吹雪のときは、立ち往生しないよう、しっかりと準備してから車を出すべきとの意見もあった。
- ・市への要望として、排水路の整備、災害無線の設置、道路の防雪対策、高台への複数の避難ルートの整備等が出された。
- ・本町地区の公営住宅が津波避難ビルになっていることを知らなかった。避難場所に関する情報をもっと周知して欲しい。



Fグループ：右岸地区（4名）

- ・自主防災の名簿があるが、最近見直していなかった。適宜見直しが必要。
- ・発災時には、消防団で所有している車をフル活用して情報周知したい。
- ・最近では災害が起きていないが、東日本大震災も踏まえて、行政からも意識啓発して欲しい。
- ・排水路の整備は必要。
- ・過去、独居高齢者に緊急通報ベルを配ったことがあった。そのようなものの配布等を考えてもよいのではないか。
- ・地域で集まって対策を練ることも必要。



	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと		③個人・地域でできないこと
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】	
1) 知る 学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の中での話し合い ・災害時にどのような行動をするのか？ 家族会議 ・ラジオをもつ。 ・ドアをあける事の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の内容と特徴、避難の仕方等を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難方法がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者の把握が必要 ・安否確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ごとの避難ルートなどの周知 ・家族会議の内容、例題の提示 ex) どこに逃げる！！ ex) どうやって連絡をとる！！ こんな事を話し合おうという例 ・消防団、町内会で調べる
2) 準備 する	<ul style="list-style-type: none"> ・非常持ち出し物品の洗い出しと用意 (個人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の備蓄品交換（市で行っている） 	<ul style="list-style-type: none"> ・備品の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所が1Fで洪水にも不安 ・水害、どの位の水位で避難するのか、しないのか？の判断 ・発電機 ・冬場の暖房 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水、安全な場所、避難場所設定 ・小学校が避難場として不安 ・避難場所における備蓄物品とその内容の周知（地域住民へ） ・各災害における避難場所の明確化と避難方法の周知
3) 想定 する				<ul style="list-style-type: none"> ・サイレンが聞こえない。 ・サイレンが少ない。ボリューム実験する ・石狩→札幌（茨戸）への避難 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の先導的活動など
4) その他				<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市との連携 	

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと		③個人・地域でできないこと
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】	
1) 知る 学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 家庭内で逃げる場所を予め決めておく。 避難する方向と場所を決めておく。 		【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 逃げる場所（高台）がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災同様の地形の場所（地域）の事例を調べる。 	
2) 準備 する	<ul style="list-style-type: none"> 持ち出し品の準備（予め） 毎年備蓄食料を食べて入れ換える。 家具の固定 水の確保（ペットボトル） 防寒用品 石油ストーブ（電気使わない）の備蓄、灯油も。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰を避難させるか（隣近所）要支援者を知る。役割分担。 この場での話を地域の皆に話す機会が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 持ち出し品の準備 体力づくり（逃げ足） 	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所を決める。 ガトーキングダムー緑苑台方面の橋が1本しかない。（狭い） →地震の後にすぐ逃げ始める。 →火災時の避難訓練以外はしていない。津波避難訓練 サイレンは、トラクター運転中は聞こえない。農作業中。 地域の備蓄 	<ul style="list-style-type: none"> 良い避難場所が無い。→新しい避難場所 避難タワー、高台 避難する手段、方法を準備する。（マイクロバス）
3) 想定 する				<ul style="list-style-type: none"> 地域内の情報伝達方法（手段）連絡網 	<ul style="list-style-type: none"> 津波の想定。ハザードマップ
4) その他					

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと		③個人・地域でできないこと
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】	
1) 知る 学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急の情報はどこから出るのか知る。 ・常にラジオを聞いている ・携帯をいつも持ち歩く。家族と話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の中の自分の所属の安否確認なら少人数なので可能！ ・緊急情報はどこから出るのか知らせる。貼らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも緊急の情報を複数得られるよう準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも、どこにいても緊急の情報を知る事ができる仕組みづくり ・大規模な防災訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに市の2階建ての建物があるが避難場所に来れないか
2) 準備 する	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち出し品、準備 ・電池、携帯ラジオを準備している ・防災の非常時持ち出し品少々あり。手回しの発電するものを用意している。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・避難ルート確認。車に燃料をある程度入れておく。避難グッズ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の安全確保 ・避難場所に備蓄する ・防災グッズの周知の指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・避難ビル（塔）の建設、設置 ・避難場所をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自販機の提供をしてもらう
3) 想定 する		<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所、ゴムボートを置く ・緊急時に花火。緊急時にヘリで知らせる 		<ul style="list-style-type: none"> ・危機意識を持つ！ ・避難場所の交通規制。警察、消防等による誘導、先導。（車での避難は否とされているが、本町地区は必要） 	
4) その他		<ul style="list-style-type: none"> ・独居の家庭に緊急通報を付けてはと思う 			

第2回 WS 本町地区 Dグループ

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと		③個人・地域でできないこと
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】	
1) 知る 学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> いざという時にどこへどう避難するのかを知っている事 まずは全員が関心を持つ事が大事 日頃地域の中で少しでも高い地区を探している 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から住民に周知させている事が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 津波の情報を提供して欲しい 		<ul style="list-style-type: none"> 場所の標高表示をする。 高低マップを作って欲しい。 持ち出し用具の必要リストを作る。(冬の事も考慮)
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> ・想定される被害の学習 </div>				
2) 準備 する	<ul style="list-style-type: none"> 持ち出し品、備蓄品の常備 家具の転倒防止 非常持ち出し用品の準備 非常時の連絡方法(家族、地域) 防寒シートを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練の実施(避難、学習等) 防火 	<ul style="list-style-type: none"> 救命胴衣を用意しておく 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の実施 地域全体の避難訓練 	<ul style="list-style-type: none"> 聚富高台での避難、駐車場所の確保 高台を作る事 石狩川に排出する水ポンプの設置 河口橋は良いかどうか(河口橋の上) 消防署を整備する。(H26)(避難場所)
				<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> ・携帯電話を持たない人、外で遊んでいる人への連絡 </div>	
3) 想定 する	<ul style="list-style-type: none"> 避難ルートを確認しておく 避難場所の確認 自分の避難ルートの確認、家から 自分の避難ルートの確認、出先(石狩市内) 		<ul style="list-style-type: none"> 避難方法の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 町内会で避難場所を決めておく 移動困難者への協力 お互いを知る。災害弱者等 	<ul style="list-style-type: none"> 避難想定を行なう(シミュレーション)
4) その他					<ul style="list-style-type: none"> 建設残土を使って高台をつくる。
				<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> ・町内会未加入の人の対応策検討 </div>	

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと		③個人・地域でできないこと
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】	
1) 知る 学ぶ		【連絡・伝える】 ・災害の被害の大きさを常に想定する。心がけ。 ・専門家にとるべき対策を検討してもらおう。 ・前提条件。役割分担。 ・対策絞って意見交換したい ・地域全体の避難	・子供達に自ら行動できる教育をしておく		
2) 準備 する	・防災グッズ、食糧 【風雪】 ・吹雪の時は個人も準備して車を出す。	・食料、水、衣料品の備蓄			・防災無線を早急に取り付けること 【洪水への備え】 ・排水路の整備 ・暴風雪対策（道路の確保）
3) 想定 する	【避難ルート】 ・各災害の避難場所、経路 ・避難場所の把握 ← そのための周知	【避難ルート】 ・避難ルートの確認（歩こう会） ※時間も図る。			・高丘へ逃げる複数の避難ルートを整備する。
4) その他					

【連絡・伝える】
 ・連絡手段を決めておく。
 ・連絡等の情報伝達手段の確保
 ・安否確認の方法

・食料、水、衣料品の備蓄

【災害の前提条件を知る】
 ・防災で講演会。災害について学ぶ
 ・専門家に想定するべき災害を調べてもらう

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと		③個人・地域でできないこと
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】	
1) 知る 学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・八幡コミセン低い ・高い場所→高岡 ・暴風雪→家から出ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の見直し ・組織図の更新 <p>【高齢者が多い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の安否の確認 <p>【担当者を決める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の役割の確認→数年以内に見直し <p>【地域活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬老会を通じ年1回会合→高齢者の確認 	<p>【今が危機ではないか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災もあるので今はピーク 		<ul style="list-style-type: none"> ・行政側からの問い合わせ ・メール配信、サービス等知らなかった
2) 準備 する	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオの準備 ・ガスコンロ ・水と燃料 	<p>【消防と自主防災組織の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回各戸の情報を調査、消防 ・自主防災組織の勉強会、消防主催 ・消防と町内会の連携体制 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の個人情報冷蔵庫に入れる ・団員の興味 ・大水以外に経験していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団がやっている事をしっかりやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに助け合う雰囲気 	<ul style="list-style-type: none"> ・排水路の準備 ・高齢世帯との連絡手段（ベル）
3) 想定 する		<ul style="list-style-type: none"> ・災害の時、どのように情報が出されるか？ サイレン、無線 			
4) その他					